

2026  
3月  
スクールホットライン

校歌を歌おう、手話とともに

From 志水小学校

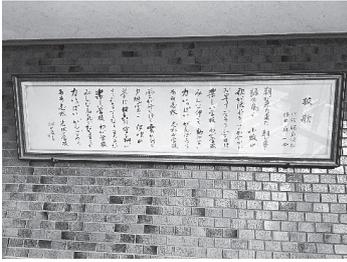
「朝が来た来た 朝が来た」  
こんな出だしで始まる志水小学校の校歌は、昭和54年に制定され、歌詞の中には、校訓の「力いっぱい」が歌われます。とても活気があり、明るい印象の歌です。式や全校集会などで歌いますが、今では歌う際に児童も教職員も、みんな必ず手話をしながら歌っています。

令和2年からコロナ禍が始まり、歌を歌うことが難しい時期がありました。志水小学校の伝統を受け継ぎ、長らく愛されている校歌をなんとか歌うことができないか、そんな思いから手話で歌うことが検討されました。

月、当時の4年生が手話を教えていた  
だきました。その後、手話を学んだ4年生は、全校児童に伝える先生役となり、映像資料を作成したり、1・2年生に教えたりしていきました。いつの間にか、全員が手話で校歌を歌えるようになりました。

大きな声で校歌を歌うことができるようになった今でも、手話は続いています。手話は一つの言語であり、社会的な理解と交流を促進する役割を果たします。これからも、手話を学ぶことを大切にしていきたいと考えています。

「校歌斉唱 手話をしながら歌いましょう。」



豊山俳句クラブ 青山克己 選

晩秋やしみ入るごとく街暮るる

青山とも子

ビニール袋飛び込む庭や冬ざるる

山下敬太

寒水仙息を小さく吐き出せり

坪井昭子

蛇行して光まぶしき冬の川

杉浦みどり

寒月や工事現場の点滅灯

坪井径子

耕<sup>ながや</sup>しの土に鋤き込む冬日かな

岡島 齋

散歩道ここにいますよ寒椿

黒澤裕子

ただひとり無言のままの大枯野

高木須磨子

やはらかに吾子がつかみし冬日かな

谷崎 琴

風一つなき元朝を詣<sup>もち</sup>でけり

青山克己